

題名：〇〇さん、あなたは正気ですか

差出人： 杉本徳久 Sugimoto Norihisa (sugimotonorihisa@gmail.com)

送信日時：2012年3月9日 13:21:13

(〇〇さん、というところには、ヴィオロンの実名が入る。こんな題名のメールを他人に送りつけること自体、杉本氏の尋常でない人柄をよく物語っている。何事に関しても、自分だけは正しいという思い込みの下、自分の欠点や異常さをすべて他人に転嫁して他人を非難せぬにいらぬ杉本徳久氏の考え方がよく表れている。だが、以下に示す通り、実際、「正気でない」ことが疑われるのはまさに杉本氏の方である。この点では、数多くの人々の意見が一致している。)

前略、〇〇様、

杉本です。以下、拝読いたしました。

私があなたへこれまで何度もお送りしている、①あなたへの唯一の連絡手段であるメールには何の返答もよこさず、②一度は削除されたご自分のブログを再度コピーしただけの③逆恨みブログに書くだけで「公開書簡」とはどういうことでしょうか。④「書簡」になっておりません。

①メールが私への唯一の連絡手段と思い込んでいるのは、杉本氏だけである。このメールが送信されて来た当時、私は KFC の礼拝に出ていたもので、杉本氏は望めば日曜日に私にいつでも会いに来ることができたし、杉本氏と会って話そうという提案も、以前に私から行なったことがあるが、彼はこれを拒否した。公の場できちんと話し会おうとせず、常にメールの文章の影に隠れて人を恫喝し、暗闇でしか人とやり取りできないのは、杉本氏の内心の恐れを如実に表した行動であると言える。

②杉本氏は私のブログに対してかつて一度いわれなき理由でプロバイダに削除要請を出し、実際に削除することに成功したので、これを鬼の首でも取ったように、自分の主張が通ったと勝ち誇っている。だが、それは、単に杉本氏の出したブログ削除要請について、プロバイダからメールの通知が来ていたことに私がすぐに気づかなかったため、うっかり一週間という短い回答期限が過ぎてしまい、その結果、自動的にブログが削除されただけであって、杉本氏の要請が認められたことを全く意味しない。

③現に、杉本氏はさらにその後も、再び、私が再掲載したブログへ削除要請を出して来たが、私が反論したため、プロバイダも私の反論内容を認めて、ブログの削除は二度と行なわれることがなかった。その点でも、当ブログが杉本氏の言うような「逆恨み」に基づいて書かれていないことはプロバイダによってもきちんと認められているのである。

そればかりか、むしろ、私の方でも、杉本氏のブログ記事に対しては削除要請を出しており、その中には、プライバシーの侵害や名誉棄損の被害を受けているといった私の具体的な訴えが認められ、杉本氏の反論を待たずに、プロバイダの判断だけで記事が削除された以下のような例もあった。<http://d.hatena.ne.jp/religious/20120101/p1>

にも関わらず、杉本氏が私のブログを同氏への「逆恨みブログ」と思い込んでいる点は、自己中心な空想（同氏の愛用する言葉で表現すれば、自己愛性妄想？）も甚だしい。ちなみに、「自己愛性妄想」というのは杉本氏の造語であって、そのような専門用語は心理学の分野にも存在しない。その他、以下で示す「珍説」と並んで、「逆恨み」なども、杉本氏特有の愛用語（杉本用語）である。

こうして、同氏はまるで世界が自分を中心に回っているかのように考えて、他人の行動の背景には常に自分の存在があると思いついておられるのだが、そうした自己中心性は滑稽なほどであり、同氏の思考の未熟さと浅はかさ、同氏が全く物事を冷静に客観的に見られない人間であることをよく示している。

実際に、逆恨みしているのは、私ではなく、杉本氏の方である。

なぜなら、当時、私の書いていたブログ「私ではなくキリスト」の記事の中でも、杉本氏に関する情報の占める割合は全体のほんの一部でしかない。そもそも、私のブログは信仰生活について書かれたものであり、初めから杉本氏とは無関係に始まっており、杉本氏を中心として執筆されているわけでもない。にも関わらず、杉本氏はどうやら、私のブログ執筆の動機が、杉本氏にあると思いついておられるようである。

こうして、常に自分を振り返ってもらうために、「逆恨み」であろうと何であろうと、何かの言いがかりをつけては、あの手この手で相手の気を引かずにいられない。これはかなり重症な勘違いというか、被害妄想というか、そこには何かしらどうしようもない幼児性のような、屈折した愛情の裏返しとしての憎しみや、嫉妬に満ちた心理があることを感じずにいられない。一言で言えば、常に誰かに絡んで行かないと生きていけない人の心理である。

杉本氏は、この日が来るまでも毎度のように、私が同氏について書いたとは一切述べて

おらず、杉本氏の名前さえも登場していないような抽象的な記事を引っ張り出して来ては、勝手に自分のことが書かれていると勘違いし、名誉を傷つけられたという思い込みに陥っては、私が同氏を「冒涇した」と怒り狂い、私に対する「報復」のために、連綿と非難記事を書くということを繰り返して来たのである。同氏はこうしたことを、私一人に対してのみならず、実に数多くのクリスチャンに対して同様に行なって来た。杉本氏のブログは、それ自体が、プロテスタントのキリスト教界に対する恨みに基づくいわれなき報復を目的として書かれていると言って過言ではない。

こうした同氏の行動から分かることは、どんなに説明しても、同氏は、自分が他者から不当に攻撃されているという妄想から抜け出せず、まるでお化けと戦うように、彼を攻撃していない人間を次々捕まえてきては、自分に言いがかりをつけたと言って、報復を挑むことをやめられないということである。まるで袖が触れただけでも、被害を受けたと主張して因縁をつけるヤクザのようである。

多分、自分の人生がうまく行かないことの責任を、常に転嫁できる相手を探し求めずにはられない心理がこういう行動へと結びつくのであろう。しかも、杉本氏は周知の通り、尋常でないほどの並外れた執念深さによって、もともと同氏の思い込みによって始まった事実無根の言いがかりに過ぎなかった事件を、巨大な妄想にまで膨らませ、自分は許しがたい侮辱を受けた、犯罪被害者だと主張して、そのような被害妄想に基づいて、何年間も、あるいは生涯に渡るほどの復讐心に燃えて、日々、恨んでいる相手に対する報復措置として犯罪を繰り返して来たのである。

杉本氏が私に対して繰り返して来た犯罪行為の例としては、虚偽の言説の流布、名誉棄損、個人情報無断公開によるプライバシーの侵害、脅迫、ネット上の逆 SEO、等々、枚挙に暇がない。こんなことばかりやっているから、彼は必ず犯罪者として裁かれることになるだろうと言うのである。

そんな風に他人への逆恨みに基づいた復讐心に生きるほど不毛なことがあるだろうか。「逆恨み」とは、まさにこのような人物のことをこそ言うのである。杉本氏は、こうして彼の人生にうまく行かないことがある度に、これを他人に転嫁するために他人に言いがかりをつけ、事実無根の「逆恨み」に基づいて他人（クリスチャン全般）への恨みと復讐心だけを糧に生きることを早くやめて、自分の人生はきちんと自分で負った方が身のためである。

④「書簡になっておりません」という彼の主張も、都合の悪い訴えからは常に逃げ回り、自分に真摯に訴えかけてくるどんな呼びかけにも、もはや誠実に応答することのできなく

なった彼の心の硬化をよく表している。大体、他人の書いた文章が書簡であるかどうか、彼が決めることではない。都合の悪い内容が書かれているものには応答したくないという同氏の思いがあればこそ、こうした言葉が出るのであり、何よりも、これは、私が同氏への反論の手紙をネット上に公開したことが、どれほど同氏にとって都合が悪かったかをよく物語っている。人を脅しつけておきながら、その脅しを明るみに出されると困るというのである。身勝手極まりない理屈である。

⑤「次の犯行に及ぶ」といいますが、具体的に何の犯行になりますか。⑥散々、私に対してでたらめな妄想を書き続けているのは⑦あなたご自身であって、あなたから始まったことです。

⑤相変わらず、何事においても、しらばっくれることしかできない人間である。自分から他人の個人情報を無断で公開すると脅したにも関わらず、それが「犯行」に当たるという自覚もなく、自分から人に言いがかりをつけて、不法な行いをしておきながら、いかなることについても、自分は微塵も責任を背負おうとせず、自分の悪事のすべてを相手のせいに転嫁して話を終わらせようというのが、杉本氏の常なる姿勢であり、卑怯極まりない態度である。

⑦この事件は、そもそも、私が杉本氏のブログに自分で書き込んだコメントを削除してほしいと杉本氏に要請したことから始まっている。私からの正当な要請に、杉本氏がきちんと応じようともせず、私からコメント削除の要請があったことを「逆恨み」して、私に因縁をつけて来たことが全ての始まりなのである。にも関わらず、杉本氏が正当な理由なくコメント削除に応じなかった行為の問題性は、彼の頭からどこかへぶっ飛んで消えているらしい。

⑥この杉本氏の文面からは、レッテル貼りだけが得意で、いつも決めつけに基づいて発言し、きめ細かい議論が全くできない同氏の様子がよく伝わって来る。「でたらめな妄想」といった表現に見られるように、杉本氏の記事やメールと文面は、常に週刊誌のような煽情的な言葉で溢れており、同氏は、こうしたセンセーショナルな文面をしきりに振りかざすことはしても、なぜそういう考えに至ったのかという具体的な論証を何も行なわない。きちんと根拠を示した上で、筋道を立てて物事を論証するということがまるでなく、ゴシップ記事のような粗雑な決めつけだけで話を進めて行くのである。その子供じみて偏った屁理屈がどんな相手にでも通じるところが、呆れるほどに想像力が欠落しているとしか言いようがない。また、このような浅薄な理屈に欺かれる人々も、その程度の知性だと自分で証明しているようなものである。

⑧「無断で私の個人情報を公表する」といいますが、匿名に隠れて私に対して事実を反する違法行為を並べているのはどなたでしょうか。

⑧これもまた杉本氏による甚だしい論理のすりかえ・飛躍である。「匿名に隠れて」と同氏は主張しているが、ブログを「匿名」で書くかどうかは、執筆者の自由であり、匿名のブログやサイトがあるからと言って、それが全て「匿名に隠れて」いるという話にはならない。

杉本氏にとって気に入らないブログやサイトが匿名であったからと言って、それがすべて（何かの悪意に基づいて）「匿名に隠れている」ということにはならないし、さらに同氏が無断でその著者の個人情報を暴き、公開しても違法行為にならないということは決してあり得ない。

にも関わらず、杉本氏の歪曲された思考によると、同氏にとって気に入らない内容を書く人間はすべて「悪人」であり、それを書いた人間が匿名であれば、「悪意によって匿名に隠れている」ということになり、その存在しない「悪意」に対して彼が違法行為を使って報復を果たしても、同氏の行為は違法にはならないということになっているらしい。こうした論理の重大な飛躍が自分では分からないのである。

杉本氏は常にこうして他人の心の内に存在しない自分への「悪意」を見だし、これに対して「報復」するために、違法行為に及び、その違法行為の責任はすべて棚上げして他人に責任転嫁することで、どこまでも自分の行為の異常性を正当化しようとはかる堂々巡りの中を生きている。

だが、私の書いている記事内容は、常に具体的な事実を挙げながら細かく論証しているのであって、決して根拠のない中傷ではない。もしこれに不満があるというならば、杉本氏は自分のブログ等できちんと私の言葉を挙げた上で、公に反論すれば良いだけであって、同氏が筋道立ててきちんと物事を論証したならば、誰が正しいことを言っているのか、読者も適切に判断するであろう。

その他にも、もしどうしても許しがたい重大な人権侵害が行われていると判断したならば、プロバイダに申し立てたり、警察に申し立てたり、裁判に訴える方法も存在するのである。裁判は杉本氏の得意分野だったはずである。

ところが、杉本氏は、私のせいで自分が重大な人権侵害をこうむったかのように主張しな

がらも、なぜだか決してこれらの正当かつ合法的で世間一般にも認められた手段を用いて、自分の権利を守ろうとはしない。むしろ、私の「個人情報を無断で公開する」と、脅しのメールを送りつけるなど、常に違法な手段ばかりを使って、相手を黙らせようと恫喝して来るのである。このことは、彼が述べている「匿名に隠れて…事実を反する違法行為を並べている」という主張が、世間で認められる余地の全くない事実無根の主張であって、杉本氏の作り上げた妄想に過ぎないことをよく物語っている。

杉本氏は実際に裁判でクリスチャンを訴えたこともあるわけであるから、裁判に及ぼうと思えば、可能なはずである。なぜそれをしなかったのかと言えば、相手にされなかったからに過ぎない。警察にも相手にされず、弁護士にも相手にされず、プロバイダにも正当な方法では相手にされる見込みがないからこそ、こうして同氏は個人的に密室で相手に脅迫メールを送りつけたり、匿名掲示板に嫌がらせコメントを書き込んだり、日夜、逆 SEO にいそしんでライバルサイトの検索順位の下落をはかったりと、常に非合法でルール違反で婉曲な手段を使って相手に嫌がらせを繰り返すことで、意気阻喪させ黙らせようとする他に、方法が見つからないのである。むしろ、それは彼が卑怯だからでもあるが、正当な手段が使えないからこそ、反則行為をひたすら繰り返すのである。

⑨「私の関係者に対しても迷惑行為」といいますが、唐沢治をはじめ、「関係者」を巻き込んで一体となってでたらめな行為をくりかえしているのは、あなた自身です。

こうして杉本氏は果てしなく論理の飛躍を行って事を大げさに拡大して行くのである。私書いた「関係者」とは、杉本氏自身が、私の関係者にこの件で連絡を取ると主張したことを意味するのであって、その文脈の中に唐沢氏は初めから含まれてもいない。

ところが、杉本氏は常に話を飛躍させて一つの事件に可能な限り無関係な他人を混ぜ込んでスキャンダルの火を煽りたいのである。特に、杉本氏は私と唐沢氏を何が何でも結び付けて事件を炎上させたくて仕方がないらしい。こうしたことは鳴尾教会の事件の際にも見られた行動である。杉本氏は自分の空想に基づいて、まるで連想ゲームのように無関係な人間を事件の「関係者」に仕立て上げては、事態を大事に発展させて行きたいのである。このように、自分で火をつけてそれを大火事に燃え上がらせた上で、火元はヴィオロンだから、自分には責任がないと言おうとするのが、杉本氏な常なる卑劣な思惑である。

だが、杉本氏が主張しているような、私が唐沢氏をこの事件に「巻き込んだ」という事実も全く存在しない。KFC と元信徒のトラブルも、私には全く関係ない時期に始まっており、どちらかと言えば、杉本氏が私に対するでっちあげの言いがかりをバッシング記事に掲載

したことによって、そこに私ばかりか、唐沢氏と KFC の元信徒や、他にも無数の関係者が引きずり込まれ、事件が果てしなく膨らんで行ったのである。むろん、関係者にも相応の責任はあるが、火元は明らかに杉本である。同氏は明らかに事件を煽り立てて膨らませ、炎上させることを意図して、最初からバッシング記事を掲載し、これらの事件を仕組んだのである。

こうして、常に火のないところに煙を立てては、自分で捏造した事件を膨らませて、無実の他者に様々な言いがかりをつけては、スキャンダルの火を煽り、より大勢のクリスチャンをトラブルに巻き込んで、事件を炎上させて、可能な限り大勢のクリスチャンを苦しめたい、なおかつ、そのすべてを自分ではなく、クリスチャンのせいになりたい、というのが杉本氏の一貫した主張と行動の特徴である。このような行動は、杉本氏と行動を共にして来た村上密氏にも共通して当てはまる。

こうした行動は、自分の悪趣味のためにローマの街に火をつけて、これを高みの見物しながら、この大火をクリスチャンに責任転嫁して、クリスチャンを処刑する口実にしたと言われる皇帝ネロの所業を彷彿とさせる。その背後には、何とかしてクリスチャンに罪を着せ、クリスチャンを苦しめたくてならないという、杉本氏の心にあるクリスチャンに対する尽きせぬ憎悪が感じられてならないのである。反キリストの霊である。

杉本氏はこうして可能な限り、大勢の信者を巻き込んで苦しめるために、ないところから事件を作り出し、これを最大限に膨らませ、そのすべてを「ヴィオロン（や他の誰それ）が火元である」とすることによって、彼の一存によってクリスチャンを私刑にする口実が欲しかったのだと見られる。他人を苦しめることや、罰することが楽しくてならず、クリスチャンを「処刑」したくてたまらない、その常軌を逸した欲望が、この文面にもよく表れている。太古から暗闇の軍勢に連綿と受け継がれて来たクリスチャン全般に対する恐ろしい憎しみが感じられる内容である。

⑩「私に不利益をもたらすような犯罪行為に及ぶつもりであるという意図」などというまえに、ご自身ですでになしている私の実名を記しての犯罪行為について先に反省なさってください。

⑩杉本氏が実名を公表してブログを書いているのは、彼が自らの判断で決めたことであり、そのことから来る責任も、当然、彼にあるのであって、他人にはない。杉本氏には、匿名でブログを書くという選択肢もあったはずであり、彼が実名を出すことを自分で決めたのである。従って、彼が実名で書いているのだから、彼のブログに対する反論も、実名を記載して行なわれるのは当然であり、それだけで「犯罪」になるはずもないのは明らかであ

る。しかも、きちんとした根拠を述べて反論されているにも関わらず、その内容に冷静に耳を傾けようともせず、ただ自分に反論されたというだけで我慢がなくなくなって、大声で「犯罪だ!」、「反省しろ!」などと喚き立てるのは、大人のすることではなく、わがままな赤ん坊のすることである。

⑩「私の実名を無断で公表するとの脅迫のメール」といいますが、あなたが私の実名を記して虚偽の中傷を行っているのであり、調子の良い弁解ばかり並べるのはお辞めください。匿名に隠れてやりたい放題なのはどなたですか。

⑪これも上と同じことである。杉本氏はほとんど自分で行った選択の結果に、自分で責任を取れない男のようなものである。もし実名を記されて反論されるのが嫌なのであれば、初めから匿名のブログを書けば良かったのである。杉本氏のブログは私のブログよりも歴史が古く、従って、杉本氏が実名を出す出さないの判断を下したことにに関して、私は全く無関係であり、そうなった理由も知らない。

こうして自分から実名を出すという選択を行ない、そのことによる利益をもちやっかり享受しておきながら、たまたま匿名でブログを書いている相手が反論して来たからと言って、それを「匿名に隠れてやりたい放題」と話を飛躍させ、「実名で虚偽の中傷をされた」と相手を非難するのは、全く当たらない。馬鹿げた主張である。実名を出してブログを書いている人間しか杉本氏に反論してはいけないという理屈は存在しないし、その反論が虚偽の中傷だと言いたいならば、公に根拠を挙げてきちんと反論すれば良いだけである。

だが、そもそも、私が杉本氏に反論しなければならなくなったのは、すでに述べたように、杉本氏が私のコメント削除の要請にきちんと応じず、それを逆恨みして言いがかりをつけて来たためである。こうして、自分が最初に相手に言いがかりをつけて、事件に火をつけておきながら、繰り返し、繰り返し、そこに事実無根の非難を増し加えては、騒ぎの火を大きくして、より多くの関係者を巻き込み、可能な限り、巻き込まれた人々の実害を増し加えようとするのが、杉本氏の常套手段であり、それが最初から彼の目的なのである。同氏にとっては、クリスチャンを苦しめることが喜びなのであり、彼のこうしたすべての行動は、他者に害を与えるきっかけを得るため、より多くの苦しみをクリスチャンにもたらずきっかけ作りのために行われているに過ぎない。

⑫「脅迫という罪に当たることをあなたはご存じない」のではなく、あなたがあなた自身のやっていることを何も理解していないだけのことです。



⑫これもまるで反論になっていない。自分の論理が破綻しており、自分が非常識で、卑劣な行動に及んでいることを相手から指摘され、自己弁護が不可能なところに追い詰められているにも関わらず、それを「あなたが何も理解していません」と言えば逃れられると思っているところが、ある意味で、笑えるほどに身勝手な屁理屈である。それ以外に言い返す言葉もないのであろう。

杉本氏の反論にはこのタイプのものが実に多い。相手が筋道立てて彼に対して何かを主張しても、同氏は、その論理に対して真摯に耳を傾けてきちんと具体的に反論することをせず、自分にとって不都合な内容が含まれている主張には、ほとんどすべて、高圧的で冷笑的な態度を取って、「あなたは頭がおかしい」とか、「あなたの言っていることは頓珍漢だ」とか、「ゴキブリクリスチャン」などと、煽情的な言葉を使ってやたらレッテル貼りに終始し、人の人格を否定したり、嘲笑する言葉を多用して、他者への人格攻撃に走ることによって、丁寧に具体的な論理に基づいて論敵と対峙することから逃げるのである。

同氏は、自分の主張が支離滅裂なために、筋道立てて物事を議論しようとするれば、自らの矛盾と破綻を暴かれて、絶対に相手に勝つことができないと分かっているからこそ、わざと人を小馬鹿にする発言を多用することで、議論そのものから逃げようとしているのである。だから、このような杉本氏の支持者というのも、彼と同じように卑怯で、きちんと物事を論理的に考えることのできない浅はかな知性の持ち主が多い。要するに、人を馬鹿にするような発言をして上から目線に立って高圧的な態度を取ってさえいれば、自分が相手を打ち負かしたかのような気になって、自分の言っていることの内容がどれほどお粗末で、支離滅裂で、論理が破綻しているかは、とうに大勢の人々に見抜かれて、軽蔑されているということの恥を考えてみようとしてもしないのである。レベルが低いというか、人格が低劣だということか、まさに聖書の警告する終わりの時代の背教のクリスチャンである「あざける者たち」の特徴をよく示していると言える。

⑬「あなたは法的に罪に問われることになる」とか、「全て実名による名誉毀損として罪に問われる」とか、「他にもさまざまな犯罪が成立」するなど、独自の刑法解釈の珍説は、それこそ開き直りではないでしょうか。

⑭ここで述べられている「珍説」という言葉も、杉本氏の愛用語である。杉本氏は、こうした言葉を多用することによって、自分は「世間一般」の側に立って、「常識的な」判断を下していると見せかけたいのである。こうした言葉を使いさえすれば、自分は世間一般の代表と言えるような標準的な考え方をしており、他方、相手は極めて異例の主張をしてい

る偏った思考の人間なのだと、人々に思わせることができると思込んでいるのであろう。

しかし、このように自分は「世間の代表者だ」と振る舞いたがる人間ほど、「珍説」を述べていることが多いものである。無断で他人の個人情報をネットに公開すれば、名誉棄損やプライバシーの侵害等により罪に問われるという事は、ごく普通の人々でも予想できることであり、それを「独自の刑法解釈」であるとか、「あなたが自分のしていることを何も理解していないだけです」などと言ってごまかせると考えている杉本氏の主張こそ、世間の常識からはほど遠く、一種の妄想的な「珍説」であると言える。

こうしたことも、杉本氏のお決まりの責任転嫁の一端である。同氏は自分のしているあらゆる違法行為の責任を、いつも相手になすりつけた上で、自分は正常な人間で正しい行いに従事しているかのように思いたいので、勝手な妄想を作り上げるのである。だが、刑法の解釈がどうのといった話も、そもそも杉本氏が判断すべき事柄ではない。他人の個人情報を無断で公開すると言って人を脅しつけておきながら、それを犯罪と認識もせず、「開き直っている」のは杉本氏の方であろう。

⑭「私のブログやホームページは、サムライファクトリーの正式な認可を得た上で私が掲載」といいますが、そのようなものは「認可」でも何でもありません。

⑭実際に、後日、杉本氏は私のブログにさらなる削除要請を送って来たが、プロバイダが私の反論の内容を考慮して、杉本氏の削除要請を却下したことから、サムライファクトリーによって私のブログの正当性が公に認められたことは事実であると言える。

⑮「一度目は私の回答が期日を過ぎたため、一旦、ブログとホームページが削除されるという結果になりました」ということは、その時点でサムライファクトリーはそれが中傷記事であることを判断して削除したということであって、それを未だに理解していないことに驚かされます。

⑮これも杉本氏の勝手な解釈であって著しい虚偽である。削除要請が出された場合、一週間以内にブログ管理者から回答がなければ、自動的にブログが削除されることは、サムライファクトリーの規則によって決まっているのである。

私のブログが削除されたのは、私が回答できなかった結果であって、杉本氏の要請内容が認められた結果ではない。現に、私はこのことでプロバイダと後日、やり取りをしたがその記録も残っている。サムライファクトリーは私のブログが杉本氏への中傷だと判断した

ために削除したのではなく、私から回答がなかったので自動的に削除したのである。杉本氏は何事に関しても、こうしてきちんと事実関係を確認しようとせず、自分にとって都合の良い解釈を施す人間であるらしい。

⑩「私に圧力をかけておられることは重大な違法行為」というせりふはそっくりそのままお返しいたします。

⑪正当なコメント削除の要請にも応じず、一千件のコメントを伴うバッシング記事を掲載し、他人の個人情報を見せしめると脅して、不都合な記事を削除するよう圧力をかけておきながら、よくもこんな台詞を吐けたものである。どこまでも恥知らずな人間である。

⑫「杉本さんがブログやメールを通して私に対して行って来られた違法な嫌がらせ」、「長きに渡っており、深刻かつ悪質なものである」、とのせりふもあなたにお返しいたします。私があなたの実名を今日まで公開しなかったのはあなたにお考えいただく時間と機会を十分にとりたかったからでしたが、全く無駄だったようです。

⑬ ここからも、杉本氏が、自分には他人を懲罰する権利があると思いがり、クリスチャンを罪に定めることや、報復行為にいそしむことをライフワークとし、それが楽しくてならない異常な心理を持った人間である様子がよく分かる。同氏は、法律を破ってでも、思い込みに基づいて、他人に不法な「報復」を行なう権利が自分にはあると考えているのである。だから、他人の個人情報を無断で公開しても、それは犯罪行為にはあたらないと考えるのである。彼は自分が行う報復行為については、きっとどんなことでも違法にならないと考えているのだろう。むしろ、違法行為に及ぶまでにかかった時間さえ、「考えなおす猶予を与えてやったのだ」などと思っているのである。

だが、このことから分かるのは、杉本氏は自分が「法」になってしまっているということである。もっと言えば、杉本氏は自分が「神」であると考えていればこそ、このような転倒した主張が可能になるのである。つまり、自分には他人を罪に定め、裁く権利があり、さらに罰する権利もあると思いがり、自分が他人に加える罪定めと裁きと報復（私刑）はどんな場合でも正しく、たとえ自分が違法行為に及んでも、自分のすることであれば、みな正しく、罪に定められるはずがないと思いついているのである。むしろ、同氏の行ないを罪だと指摘する相手こそ、開き直ったり、言いがかりをつけて来ているだけだと同氏は考えているわけである。

こうなると、もはや常識も法律も一切通用しない妄想の世界の思考であり、自分のやることはすべて正しく、それに反対して来る人間は「悪人」だという思い込みの世界を同氏は生きていることになる。自己の無謬性の確信に至っていると言えるだろう。こうした人々が、己を神とするグノーシス主義者でない理由がどこにあるか。自分は何をやっても裁かれず、どんな違法行為をしても罪に問われるはずがなく、自分に敵対して来る人間こそ、自分を「逆恨み」しているだけであって、その主張は「珍説」であって、自分こそが世間代表であり、正しい考えを述べているのである…、人として、このような思考は正常ではない。ここまで恐ろしい思い込みには陥らないためには、やはり、カルト被害者救済活動などには絶対に関わらないことをお勧めする。自分に関して一切の過ちも認められず、一切の自己反省が出来ず、己の行為の責任をすべて他人に転嫁して、常に他人を断罪せずに行われず、自分は攻撃されているとの思い込みに基づいて、他人に不法な手段で「報復」することを生き甲斐とする、これはもはやまともな思考とまともな生き方ではないので、こうした異常な思考に基づく活動には巻き込まれず、影響されないことを勧めるほかない。

⑩「今後、本件には主として警察を通じて対応いたしますこと、ご承知おき下さい。」といいますが、それであれば、どうぞ気の済むまでなされれば良いかと存じます。通報した警察署の名をご連絡ください。こちらからも資料を提出して詳細にご説明したいと存じます。

⑪これも笑えるほどに杉本氏の想像力の欠如がよく分かる文章である。警察に犯人を通報した後で、犯人に向かって、通報した警察署名をメールで知らせるような愚か者がどこにいるであろうか。そんなことすらも杉本氏には想像できないのである。このメールだけでも、これほど浅薄な主張しかできないのであるから、何の「資料」が同氏に他にであろうか。強がりも良いところである。

⑫〇〇さん、あなたは正気ですか。

⑬杉本氏がいつもこうして自分に反対して来る人間はみな「正気でない」と決めつけることによって、自分だけが正しく、他はみな間違っているという思い込みの世界に住み、きちんとした正当な議論から逃げ続けている様子がよく分かる。議論になると、自分には太刀打ちできないからこそ、相手を異常と決めつけることで、議論そのものから逃げる卑怯さをよく表している。

だが、正気でないのは、杉本氏本人である。そのことは、実に数多くの人々が指摘し、確信しているところであり、ただ杉本氏本人にその自覚がないだけである。少なくとも、日夜、クリスチャンを苦しめるためだけに妨害・中傷・破壊工作にいそしむことができるそ

の精神性を見て、誰もそれを正常な生き方であるとは認めないであろう。

何よりも、杉本氏の行動は、クリスチャンとしての行動ではない。彼がクリスチャンを名乗っているのは、ただ羊の群れに入り込み、これを思うがままにかき回し、より多くの信徒らに実害を与えるための口実でしかない。杉本氏の行動の根底にあるのは、クリスチャンに対する憎しみ、プロテスタントのキリスト教界に対する尽きせぬ恨みと復讐心である。

杉本氏の個人情報はずべてネット上で公開されているので、伏せる必要がない。

180-0001

武蔵野市吉祥寺北町1-5-14

杉本徳久

07050127587